

## 2010 年エボニック グループ業績発表

2011 年 3 月 31 日

エボニック、2010 年は好業績を収める - さらに収益増に向け順調に成長

内藤 吾朗  
コミュニケーションズ  
T +81-3-5323-7391  
F +81-3-5323-7399  
goro.naito@evonik.com

- クラウス・エンゲル取締役会会長「2010 年は素晴らしい年だった。エボニックは過去最高の収益を計上した」と発表
- 好業績の 2010 年:  
グループの売上は 26%増の 133 億ユーロを計上し、  
EBITDA(金利・税金・償却前利益)は 47%増の約 24 億ユーロに、  
EBIT(金利税引前利益)は 89%増の 16 億ユーロ超となる
- 化学部門が過去最高の業績を達成
- 純利益は 3 倍増の 7 億 3,400 万ユーロに
- 継続事業のキャッシュフローが約 2 億ユーロ増加の約 16 億ユーロに
- 純金融負債がさらに減少 - 財務プロフィールが大幅に改善
- 設備投資が増加 - 研究部門を強化
- スペシャルティケミカルに集中する戦略が進展
- 化学事業担当の取締役を追加で任命
- 2011 年も好発進:  
エンゲル「今年エボニックの事業は好調なスタートを切ることができた」

エボニック インダストリーズ(ドイツ・エッセン)は 3 月 16 日に業績発表を行い、クラウス・エンゲル取締役会会長は「2010 年は素晴らしい年でした。エボニックは過去最高の収益性を上げています」と述べました。エボニック グループの中核である化学事業は、過去最高の業績をあげることができました。スペシャルティケミカルに集中する戦略を実現するため、2010 年末にエボニックはエネルギー事業の株式の過半数を、ドイツのライン・ルール地域にある都市公共施設の共同事業体に売却することに同意しました。その結果、エネルギー部門は非継続事業に再分類されました。また、住宅用不動産会社である Evonik Immobilien 社と THS 社の合併が進められています。「事業の再編成はほとんど完了しました。将来的にエボニックの社名は、スペシャルティケミカルのグローバルリーダーと同義語になるでしょう」とエンゲルは述べています。エボニックは、グローバルなメガトレンドを最重要視しており、「収益性をさらに拡大し増加させたいと考えています。そのため

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

今後エボニックも経営はすばやく、効率的に、柔軟に対応し、市場志向をいっそう強化します」とエンゲルは話しています。化学事業と取締役会を緊密に連動させるため、2011年4月1日付けで取締役を6名に増やします。4月からパトリック・ウォルハウザー(Patrik Wohlhauser) (46)がコンシューマー・ヘルス & ニュートリション部門担当、トーマス・ヘーベレ(Thomas Haerberle) (54)がリソースエフィエンス一部門担当、ダハイ・ユ(Dahai Yu) (49)がスペシャリティマテリアル部門担当の取締役にそれぞれ就任します。エンゲルは「将来に向けた課題にしっかり対応できる、強力な経営チームができました」と述べています。

EBITDA(金利・税金・償却前利益)マージンは18.3%を計上しており、エボニックの中核である化学事業は、2010年現在このビジネスセクターのリーダーとされています。エンゲルは「今後もこのレベルに留まりたい」とコメントしています。このためグループは、主な戦略投資プロジェクトを開始しました。例えば、シンガポールの新しいメチオニン製造施設に5億ユーロを投資する計画が進んでいますが、同施設では2014年に飼料添加物の生産を開始する予定です。さらに、2014年までにアジアとヨーロッパの沈降シリカの生産能力を25%拡大します。また、エボニックはできればアジアにイソホロン化学品の新しい製造施設を建設し、2013年に稼働する予定です。エボニックグループはすでにこの3分野のグローバルな市場リーダーになっていますが、関連した成長市場において各分野をさらに強化することを目指しています。

### グループの売上と収益が昨年を大きく上回る

2009年下半期に事業が大きく好転した後、主にアジアとヨーロッパにおける需要の伸びに後押しされて、一年を通じて好調を持続することができました。グループの売上は前年比26%増の133億ユーロに達しました。根強い需要、設備稼働率の上昇、マージンの改善により、EBITDAは47%増の23億6,500万ユーロとなりました。グループのEBITDAマージンは、15.3%から17.8%に増加しました。特に化学事業のEBITDAマージンは、前年の16.1%から18.3%に急増しました。EBITは89%増加して16億3,900万ユーロを計上しました。

2億3,600万ユーロの営業外損益の主な内訳は、再編コスト、減損、年金、環境保護でした。継続事業の所得税前収益は、1億8,900万ユーロから大幅に増加して9億7,500万ユーロとなりました。非継続事業の所得税前収益は、7,300万ユーロを計上しました。主な内訳は、エネルギー部門の事業収益およびエネルギー事業からの投資回収に関連した1回限りの経費です。一方、前年の数値である2億2,300万ユーロの内訳は、エネルギー部門の事業収益が大半を占めてい

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

ました。エボニックの全体的な純利益は、3 倍増の 7 億 3,400 万ユーロを計上しました(前年は 2 億 4,000 万ユーロ)。

### 財務プロフィールが大きく改善

エボニックの使用総資本利益率(ROCE)は、前年の 7.7%から大幅に改善して 15.0%となりました。これは税引前資本コストの 9.5%を大きく上回っています。

極めて好調な業績のおかげで、エボニックの継続事業のキャッシュフローは 1 億 8,200 万ユーロ増加して 15 億 7,100 万ユーロに達しました。非継続事業のキャッシュフローを含めると、営業活動によるキャッシュフローは、前年とほぼ同等の高水準である 20 億 7,500 万ユーロになりました。設備投資は 15%増の 6 億 5,200 万ユーロを計上しました。キャッシュフローは投資資金、2009 年における 3 億 2,000 万ユーロの配当金支払、未払年金契約の一部に対する取り決め(Contractual Trust Arrangement - CTA)に使用され、合わせて純金融負債の圧縮にも充当されました。前年同期比(エネルギー部門を含む)では、純金融負債は 34 億ユーロから 27 億ユーロに縮小しました。2010 年 12 月 31 日現在のエネルギー部門の純金融負債である 10 億ユーロを控除すると、エボニック グループの純金融負債はおよそ 17 億ユーロになります。

### エボニックが初めて格付け機関の評価を受ける

2010 年秋、Standard & Poor's(スタンダード・アンド・プアーズ)と Moody's(ムーディーズ)の 2 つの格付け機関の評価を受けたことにより、エボニックの資本市場へのアクセスがさら拡大しました。現在の格付けは投資適格をわずかに下回るものであり、主にスペシャリティケミカル重視の姿勢が評価されて、2010 年末の Standard & Poor's の評価はポジティブな見通しを示す BB プラス、Moody's の評価も同様の Ba1 でした。

### スペシャリティケミカルに集中する戦略が進展

エボニックは 2010 年に、スペシャリティケミカルに軸足を置く戦略を体系的に進めました。「ライン・ルール地域公益公社の共同体という、有能で信頼できる相手先にエネルギー事業の過半数の株式が譲渡されました。遅くとも 5 年以内にエネルギー分野の全事業を、この事業体に売却するという確定契約を交わせたことは朗報です」とエンゲルはコメントしています。これにより、Evonik Steag 社が持つエネルギー事業の成長ポテンシャルを十二分に発揮できるようになります。

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

一方、Evonik Immobilien 社と THS 社の合併が順調に進捗しています。2011 年初頭より、両社は同一の合併チームによって運営されています。「経済効率と借家人、従業員、地域に対する責任のバランスを図ることができる新しい組織のために、持続可能なビジネスモデルを追求しています」とエンゲルは強調しています。「スペシャリティケミカルに集中する戦略の一環として、中期的に新会社の株式売却を検討します。将来の所有者は、エボニックの不動産事業の持続的なビジネスモデルをサポートする長期的な投資ビジョンを持った企業でなければなりません。」

### 効率化プログラムが大きく前進

経済危機に対処するため、エボニックは 2009 年初めに「On Track」効率化プログラムを導入しました。競争力を持続的に高めるため、グループは 2012 年から年間 5 億ユーロの持続的なコスト削減を目指しています。この目標に向けて、主要なコスト項目をすべて分析し、構造およびプロセスを検討しました。2010 年末までに、目標となる節減を達成するための具体策が講じられ、すでに 3 回の四半期にわたり節減目標(約 4 億ユーロ)が達成されました。

### 研究開発

エボニックは 2010 年に研究開発費を 13%増加させ、3 億 3,800 万ユーロを投下しました(前年は 3 億ユーロ)。うち約 60%は、新製品と新技術プラットフォームの開発に費やされました。2010 年 10 月、エボニックは 2011 年 4 月に稼働する予定の新しいプロジェクトハウスを、台湾に設立する準備を開始しました。このアドバンス・プロジェクトハウス・ライト&エレクトロニクスは、光電子工学産業という革新サイクルの極めて速い市場に重点を置きます。この施設はグループのドイツ国外で初めてのプロジェクトハウスであり、高成長をとげるアジア地域のお客様に対応するための拠点が追加されることとなります。プロジェクトハウスには戦略的研究が割り当てられ、2015 年以降に年間 6 億ユーロの付加的な売上が得られる見通しです。

### 2010 年の部門別業績

#### 化学部門

#### 記録的な収益を計上

化学部門の売上は、前年から 29%大幅増の 128 億 6,700 万ユーロを計上しました(2009 年は 99 億 7,800 万ユーロ)。増収を支えたのは主に売上高と価格でした。ほとんどのビジネスユニットでは、景気後退前の 2008 年上半期のレベルと同等かそれを上回るレベルにまで需要が回復しました。その結果、大半の製造施設が

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

フル操業しています。コスト削減と効率化のための効果的な方策に加え、売上高の大幅増、高い設備稼働率、マージン上昇が重なり、EBITDA と EBIT の両方が過去最高を記録しました。すべてのビジネスユニットの収益が景気後退前のレベルをはるかに上回りました。EBITDA は前年比 47%増の 23 億 5,700 万ユーロに増加し、EBIT は 83%増加して 17 億 200 万ユーロに達しました。

### 高い収益性指数

化学部門の EBITDA マージンは、16.1%から 18.3%に大幅に増加しましたが、この事業領域では格段に良好なレベルです。また収益が飛躍的に改善したおかげで、ROCE が 9.9%から 18.4%に大きく上昇しました。

### 中核事業に集中

エボニックは中核事業への集中化を体系的に進めており、戦略的観点から成長プロフィールに適合しない事業活動や、グループ内で成長ポテンシャルが限られている事業活動からの引上げを行っています。2010 年第 4 四半期には、カーボンブラック事業の売却準備が始まりました。また、中期的にはカラランツ事業の売却を検討しています。最終的には、これらの事業の新しいビジネス機会を切り開くことができる、新たな所有者を見付けることを目標としています。

### 不動産部門

#### 収益が改善

不動産部門の売上は、前年比 2%増の 4 億 200 万ユーロを計上しました。EBITDA は前年比 3%増の 1 億 9,000 万ユーロとなり、EBITDA マージンは 6.5%から 47.3%に増加しました。EBIT は、主に財産管理の改善とポートフォリオ管理に起因する収益増に支えられて 5%増加し、1 億 4,000 万ユーロを計上しました。ROCE は 7.7%に上昇しました(前年 7.3%)。

### 非継続事業:エネルギー部門<sup>1</sup>

#### 収益が大幅増

エネルギー部門の売上は、前年比 8%増の 27 億 6,200 万ユーロを計上しました。増収は大量販売の増加、強い米ドル為替レート、無煙炭価格の上昇に起因しています。EBITDA は前年比 26%増の 5 億 2,500 万ユーロを計上しました。EBITDA マージンは 16.3%から 19.0%に増加、EBIT は 33%増加して 4 億 3,500 万ユーロ

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

<sup>1</sup> ここに挙げる数値は、対応するグループ全体の数値には含まれていません

に達しました。ROCE は収益増のおかげで 9.7%から 13.1%に大幅に上昇しました。

#### 2010 年第 4 四半期における事業

エボニック グループは、2010 年第 4 四半期も非常に好調な業績を持続しました。売上は前年同期比 22%増の 33 億 9,000 万ユーロを計上しました。化学部門の売上は、売上高の増加と販売価格の上昇に支えられて、23%増の 32 億 7,400 万ユーロに達しました。不動産部門の売上は 4%増の 1 億 2,200 万ユーロでした。

2010 年第 4 四半期のグループの EBITDA は前年同期の 4 億 400 万ユーロから 18%増加して、4 億 7,800 万ユーロとなりました。化学部門の EBITDA は 11%増の 4 億 8,300 万ユーロでした(前年同期は 4 億 3,500 万ユーロ)。不動産部門の EBITDA は 100 万ユーロの微増となり、5,200 万ユーロを計上しました。

化学事業の順調な業績傾向にも関わらず、エボニック グループの純利益は、前年同期の 2,900 万ユーロと比較して、今期はマイナス 5,600 万ユーロでした。2010 年第 4 四半期の数字には、エネルギー事業の売却にともなう 2 億 5,100 万ユーロの一時的費用が含まれています。これは、売却関連の引当金を認識したことによります。

#### 非継続事業<sup>2</sup>

売上の増加と石炭価格の上昇に後押しされて、2010 年第 4 四半期のエネルギー部門の売上は 11%増の 7 億 8,500 万ユーロを計上しました。一方、EBITDA は 11%減の 1 億 3,600 万ユーロとなりました(前年同期は 1 億 5,300 万ユーロ)。

#### 2011 年の見通し：引き続き好調な業績を見込む

多くの国で山積する政府債務やアラブ諸国の政情不安によるリスクが存続することを考えると、2011 年の経済発展には依然として不確定要素がありますが、全般的にみてエボニック製品に対する需要は成長地域を中心に拡大しつづける見込みです。マイナス要因としては、今後も続くと思われる原料コストの高騰が挙げられます。グループ全体の売上は微増が予想されており、事業収益(EBITDA と EBIT)は、過去最高となった 2010 年のレベルが持続する見通しです。

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

<sup>2</sup> ここに挙げる数値は、対応するグループ全体の数値には含まれていません

グループの成長戦略と関連投資により、今後数年間に資本支出が大幅に増加します。増分はキャッシュフローから十分に賄うことができます。

#### エボニックグループの損益計算書(概要)

(単位 100 万ユーロ)	2010 年 第 4 四半期	2009 年 第 4 四半期	変動 (%)	2010 年	2009 年	変動 (%)
売上	3,390	2,776	22	13,300	10,518	26
金利・税金・償却前利益 (EBITDA)	478	404	18	2,365	1,607	47
金利税引前利益(EBIT)	276	193	43	1,639	868	89
営業外損益(継続事業)	-78	-159		-236	-282	
金融収支	-102	-100		-428	-397	
<b>= 所得税前収益(継続事業)</b>	<b>96</b>	<b>-66</b>	<b>-</b>	<b>975</b>	<b>189</b>	<b>416</b>
所得税前収益(非継続事業)	-164	110		73	223	
<b>= 所得税前収益(合計)</b>	<b>-68</b>	<b>44</b>	<b>-</b>	<b>1,048</b>	<b>412</b>	<b>154</b>
所得税	25	7		-255	-100	
<b>= 税引後所得</b>	<b>-43</b>	<b>51</b>	<b>-</b>	<b>793</b>	<b>312</b>	<b>154</b>
少数株主持分	-13	-22		-59	-72	
<b>= 純利益</b>	<b>-56</b>	<b>29</b>	<b>-</b>	<b>734</b>	<b>240</b>	<b>206</b>

前年度の数値は見直したものです

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)

## 事業分野別の業績

	売上			EBITDA		
	2010年 第4四半期 (100万ユーロ)	2009年 第4四半期 (100万ユーロ)	変動 (%)	2010年 第4四半期 (100万ユーロ)	2009年 第4四半期 (100万ユーロ)	変動 (%)
化学	3,274	2,662	23	483	435	11
不動産	122	117	4	52	51	2
その他	-6	-3	-	-57	-82	-
<b>エボニック グループ全体</b>	<b>3,390</b>	<b>2,776</b>	<b>22</b>	<b>478</b>	<b>404</b>	<b>18</b>
参考用: エネルギー	785	709	11	136	153	-11
	売上			EBITDA		
	2010年 (100万ユーロ)	2009年 (100万ユーロ)	変動 (%)	2010年 (100万ユーロ)	2009年 (100万ユーロ)	変動 (%)
化学	12,867	9,978	29	2,357	1,602	47
不動産	402	396	2	190	184	3
その他	31	144	-78	-182	-179	-
<b>エボニック グループ全体</b>	<b>13,300</b>	<b>10,518</b>	<b>26</b>	<b>2,365</b>	<b>1,607</b>	<b>47</b>
参考用: エネルギー	2,762	2,558	8	525	418	26

前年度の数値は見直したものです。

## エボニック グループの事業別の社員数

	2010年12月31日	2009年12月31日
化学	31,061	30,318
不動産	1,098	1,056
その他	2,248	2,487
<b>継続事業</b>	<b>34,407</b>	<b>33,861</b>
非継続事業(エネルギー)	4,916	4,820
<b>エボニックグループ全体</b>	<b>39,323</b>	<b>38,681</b>

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モリス 12F

www.evonik.jp



#### エボニック インダストリーズについて

エボニック インダストリーズはドイツのクリエイティブな産業グループです。私たちのコアビジネスであるスペシャルティケミカルでは世界的リーダーとなっています。また発電事業や不動産部門も保有しています。私たちの業績は創造性・専門性・自己革新力・信頼性によって作り上げられています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2010年度は34,000人以上の社員を有し、総売上高は133億ユーロ、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は24億ユーロを計上しました。

#### 免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

(このプレスリリースは2011年3月16日にドイツで発表されたものの翻訳版です)

エボニック デグサ ジャパン  
株式会社  
〒163-0938  
東京都新宿区西新宿 2-3-1  
新宿モノリス 12F

[www.evonik.jp](http://www.evonik.jp)